

邪馬台国と聞けば歴史のロマンを感じる読者も多いと思いますが、日本語の音に当てた漢字とはいえ、「邪」という字を当てるとは随分ひどい話だと思います。風によって運ばれる邪気を「風邪」と言うくらいですから、まったくよろしくない当て字です。今月号の一つ目の特集は「ウイルス感染とその合併症——「風邪は万病のもと」を考える」です。出典である前漢時代の医学書『黄帝内経』では「風者百病之長也（かぜはひやくびょうのちょうなり）」と書かれているそうですが、風邪はさまざまな病気を引き起こすことが紀元前にすでに書かれています。今回の特集では、悪性腫瘍、血液疾患、自己免疫疾患、神経疾患、腎疾患、内分泌代謝性疾患など、ウイルス感染との関係が示唆される疾患について、各領域の専門家に解説をお願いしました。新型コロナウイルスが川崎病類似疾患の原因になるという話題は記憶に新しいものと思います。

もう一つ、「小児科サブスペシャリティ領域の専門医制度のこれから」という特集を組みました。これはわれわれ小児科医にとって、非常に重要な問題です。特にこれから小児科医を志す若い先生方や学生にとっては将来のキャリアを考えるうえで死活問題であるともいえます。残念ながら、専門医機構は小児神経、小児循環器、小児血液・がん、臨床遺伝、子どものこころ、てんかんの6領域の承認を見送る

決定をしてしまいました。他の領域についても「〇〇内科」として専門医を規定する方針で、小児科専門医を基盤としたサブスペシャリティ専門医の取得は困難な状況と考えられます。しかし、現状各領域ではこの問題についてそれぞれどう考えているか、現時点で皆様と情報共有しておく意義は大きいと考えます。

「綜説」では、一つは最近保険収載され小児アトピーの重症度評価に有用な SCCA2 について基礎から実臨床まで詳述していただいています。もう一篇は神経発達症の診断がゲノム医療の進歩によってどこまで可能となってきたかについて up-to-date な解説をいただきました。「診療」は、応用範囲がますます広がっている超音波による肺疾患の診断の実際について非常に有益な解説となっています。「症例」では、重症心身障害児者の骨格筋量、急性化膿性甲状腺炎と梨状窩瘻、細菌性気管炎、BCG による結核疹というどれも興味深い報告が収載されています。是非ご一読ください。

ウイルスはわれわれ小児科医にとって永遠のライバルともいえます。サブスペシャリティの問題などもありますが、日々の診療では今日もウイルスとの戦いを続けていくのでしょう。ファイト！

(伊藤 保彦)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第 62 巻 第 12 号 11 月増大号

2021 年 11 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）

定価 4,950 円（本体 4,500 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料で〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。